



アーツ前橋のみなさまへ

梅雨の晴れ間を縫って、堅町スタジオでひいて繊維工業試験場で燃糸していただいた糸を精錬し桑の実で染めてみました。「糸をつくるプロジェクト」の再開の目処は立っていないので、本や WEB で公開されているレシピ片手に、上州文化ラボさん・針塚農産さんに送っていただいた桑の葉・桑の実を使ってのリモートワークです。東京はいち早く回復せんとばかりに瞬間に元の活気ある風景に戻りつつありますが、都外への移動はもう暫くナイーブな時間が続きそうです。



東京は日本の中の爆心地になってしまった訳ですが、私も御多分に洩れず緊急事態宣言発令中の2ヶ月間は家にこもって過ごしました。身内に感染者は出ておらず、広告代理店のデザイナーワークもスピード感を持ってリモートワークに移行したので恵まれた立場だったと思います。しかし、住んでいるマンションの小さい川を挟んで向こう岸の大病院が COVID-19 感染者受け入れ施設になっていたので一時は24時間救急車のサイレンが止まず、身近に死を感じながら過ごすのは精神的に堪えるものがありました。

巣籠もりの2ヶ月間、正しく言えばフィリピンから帰国した3月上旬から現在に到るまで、色々なことを考えました。政治、経済、労働、コミュニティ、人権、自然、戦争などについて。世界中のジャーナリストが伝えてくれる報道をソースに、今起きていること的背景を想像しながら共存のシステムをどう改変すればよりよい社会になるかをロールプレイングしていました。アートは作品が立ち上がるまで時間がかかるので即効性はないと思っています。だからせめても、現実と対峙し続けるレッスンを続けていたのです。「糸をつくるプロジェクト」も蚕種・稚蚕・養



蚕・座繰り・撚糸・精錬・染色・組紐/刺繍と長い時間かかるものです。しかし、分断が加速し何事も軽量化する世界において人の手によって行われる生産プロセスを提示する事が、生きるということについて再考するスイッチになるのではないかと考えています。ささやかですが、私なりのアクティビズムです。

リモートワークで染めた糸、なかなか思い通りには色が出ません。やはり技は真似ぶもの。桐生の職人さんから直接糸染めを習える日、現地前橋でプロジェクトを再開できる日を心待ちにしています。

2020.6.20 羽山 まり子